

「棚読み」のススメ

附属図書館副館長 松丸 真大(教育学部教授)



5歳になる長男は、2週間ごとに近所の図書館に行って毎回10冊ずつ本を借りてきます。最近は絵本以外に昆虫や恐竜の図鑑・写真集も借りるようになってきました。その長男の本の選び方が変わりつつあります。最初は自分が気に入った本を繰り返し借りていました。「この本は読んだことがあるから別のにしたら？」と提案しても、やはりお気に入りの本を持ってくるのです。ところが先日「これ好きだったよね。借りる？」と聞いたら、「それはもう読んだから借りない」という意外なお返事。そして昆虫や恐竜の棚に行って、見たこともない本を持って来るのです。人は既有の知識に新しい情報をリンクさせることで学習していくそうですが、長男はまさにそれをしていたのです。安心できるところ(お気に入りの本)から一歩踏み出して、少しでも知らない情報が入った本を読む。そうやって少しずつ知識のネットワークを広げているのでしょう。図書館はそういう本の読み方を可能にしてくれるところです。一度借りた本の周りを見渡せばよいのですから。みなさんも興味がある分野の周りをみてみると、少しでも世界が広がるかもしれませんよ。